

様式1

令和7年度 学校評価表

学校教育目標	確かな力で未来を拓く教育の創造
--------	-----------------

a ミッション	小中連携の推進による主体性と学ぶ力を育む教育の創造	aビジョン 夢ひろがる地域の学校 ・明日も行きたい学校 ・会いたい友達や先生 ・受けたい授業
---------	---------------------------	--

尾道市立御調西小学校

評価計画					自己評価					学校関係者評価			改善計画	
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月末	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価		l コメント	m 改善案	
					g 達成率	g 達成率	g 達成率	イ		ロ	ハ			
夢ひろがる地域の学校・明日も行きたい学校・会いたい友達や先生・受けたい授業	基礎学力の定着	小中連携して取り組む基礎基本の確実な定着	○国語・算数の単元末平均点 ・低学年90点以上 ・中学年85点以上 ・高学年80点以上	90点 85点 80点	国語 94点 89点 89点 算数 97点 85点 88点	国語 91点 90点 90点 算数 94点 88点 87点	国語 101% 106% 113% 算数 104% 104% 109%	国語 A A A 算数 A A A	○国語・算数の単元末テスト平均点は、上半期に引き続き低中高それぞれ達成度が全て100%以上あり、継続して学力を概ね定着させることはできた。日頃の授業やいききタイムを使って継続的に復習を行ってきた。標準学力調査は全学年で国語・算数の全国平均を上回ったが、前年度の全国平均の差を上回った項目は12項目中8項目であった。これらの課題を基に、個に応じた対応も意識しながら来年度につながる授業改善を行い、日頃の授業からどう改善していけばよいかが明確にしていける。教員の意識統一を図り、さらなる学力の定着を目指していきたい。	9		日頃の授業を充実させることやいききタイムを活用することを通して、児童の学力定着や向上に引き続き取り組んでいく。特に、標準学力調査や全国学力・学習状況調査の分析を基に本校で取り組むこと、小中連携協議会から中学校区で取り組むことを、指導者が日常的に意識できるように可視化する。日頃の授業では、改善する場面・交流する場面を意図的に作ることで「考える」ことを大切にしたい授業を進め、継続的な取組を丁寧にを行い、積み重ねていくようにする。そして、反復練習で基礎基本の定着を図っていくとともに、給食準備時間等を利用した指導を行うなどして個に応じた対応を充実させる。また、NIEに関する取組も引き続き充実させることにより、児童の学力定着や向上とつながっていきたいと考える。		
			○標準学力調査 ・前年度の全国平均との差を上回る(1年生は、全国平均+5) ※国・算×6学年(12項目)のうち75%(9項目)以上	75% (9/12)		66% (8/12)	88%	B						
			○「友達や先生の前で自分の意見を伝えることに自信がある。」と答える児童の割合 肯定的評価80%以上(学期末) ※評価指標を学期末アンケートに入れる。	80%	81%	87%	105%	A					○表現に関わる児童アンケートを実施し、肯定的評価平均が87%となり、達成度が100%を上回った。2学期以降も、学習発表会や道の駅でお米の販売、授業で学習したことを紙やデジタル新聞にまとめる活動など様々な方法で自分の思いや体験したこと、学習したことを表現する活動を行った結果だと考える。まとめの時期に入る3学期も表現活動を積極的にを行い、社会事象に目を向けながら、児童が「友達や先生の前で自分の意見を伝えることに自信がある。」と思えるように取組を行っていきたい。	
			○生活科・総合的な学習の時間を中心とした表現力の向上											
豊かな心と体の育成	自己有用感の向上	基礎的な運動体力・運動技能の定着	○学級や学校内で役割を持たせ、協働して活動する機会の設定。 ・1～3年 係活動等 ・4年 委員会活動等 ・5～6年 委員会クラブ活動、縦割り活動、学校行事等 ○職員全体で、児童が当たり前今できている行動を認め価値付ける(風土の醸成)。	○自分の活動がみんなの生活に役立っている実感できる児童の割合 肯定的評価90%以上(学期末)	90%	95%	100%	111%	A	8		○「自分の活動がみんなの生活に役立っている」と実感できる児童の肯定的評価は100%で、達成度は111%となった。自分のよさや頑張りを認めにくい児童に対しては、必ず個別に話を聞き、よい所を伝えて励ますようにした。また、行事の際には全員に役割をもたせ、それぞれが全力で取り組めるよう指導をした。全員に自己有用感、達成感をもたせようという指導者側の意識が向上した結果と考えられる。	100%が肯定的評価という結果だが、本校の児童は先生の期待に応えるという気持ちや強い思い、心配や不安を感じ、思い通りに進もうと奮闘していることはいくつかある。 ・いざやめようとしていることを子ども達の表情から感じる。運動場において大人数をする中でそれぞれが目標を立て、それに沿いたいという気持ちで達成感を感じているように見えるように指導し、自分自身で達成感を感じてほしい。 ・1人1人が、個人活動をするの目標に立ててがんばり、自分なりに進み具合も認識しながら努力しているのが感じられる。自分というものを大切にする、自分自身で立てた目標にむかって努力していること、達成感を感じることができていると感じていると思う。 ・100%の割合であったのは素晴らしいことだが、今後の目標として、児童一人ひとりがよく頑張っているように思える。	100%が肯定的評価という結果だが、本校の児童は先生の期待に応えるという気持ちや強い思い、心配や不安を感じ、思い通りに進もうと奮闘していることはいくつかある。 ・いざやめようとしていることを子ども達の表情から感じる。運動場において大人数をする中でそれぞれが目標を立て、それに沿いたいという気持ちで達成感を感じているように見えるように指導し、自分自身で達成感を感じてほしい。 ・1人1人が、個人活動をするの目標に立ててがんばり、自分なりに進み具合も認識しながら努力しているのが感じられる。自分というものを大切にする、自分自身で立てた目標にむかって努力していること、達成感を感じることができていると感じていると思う。 ・100%の割合であったのは素晴らしいことだが、今後の目標として、児童一人ひとりがよく頑張っているように思える。
			○「目標に向かって取り組み、自分の目標を達成できた、成長を感じられた。」と答える児童の割合 肯定的評価90%以上(学期2回)	90%	98%	99%	110%	A	○各学年の体育授業およびなわとびの活動において、「目標に向かって取り組み、自分の目標を達成できた、成長を感じられた。」という児童の肯定的評価は、達成度が100%を超え、多くの児童が達成感を得る結果となった。この成果の要因として、体育授業では児童が目標を意識できるような指導を継続して行なったことがアンケート結果につながったと考えられる。					
	○コミュニティ・スクールのよさを生かした教育活動の実施	○「地域と関わりながら、地域のことを学ぶことが好き。」と答える児童の割合 95%以上(学期末)	95%	95%	100%	105%	A	○2学期も地域の方々の協力を得て、生活科や総合的な学習の時間、行事を充実させることができた。その結果、児童アンケートでは、全児童(100%)が肯定的回答をした。1学期末に否定的回答であった児童も地域のよさを生かした教育活動を推進したことにより、地域と関わりながら、地域のことを学ぶことが好きだと考えたのだと考えられる。3学期も継続して地域の方々の協力を仰ぎ、地域のよさを生かす教育活動を推進する。	今年度活用した地域の人材や行った校外学習について整理し、来年度以降も引き続き様々な機会を通して、児童が地域へ進んで出向くとともに、地域の方にも学校へ出向いていただくようにする。そこから、児童と地域の方の関わる機会を多く作り、地域と共に歩むが共に創り出していく学校へと向かう。体験と地域の環境へも目を向けて学習を行い、確かな力をつけていくようにする。					
	業務改善による働き方改革の推進	○業務分担の見直し・進捗調整と業務の手助け	○「私は、日々の業務の中で充実感を得られている。」と答える職員の割合 80%以上(働き方改革アンケート)	80%	94%	78%	98%	B	○日々の業務の中で充実感を得られたとする職員が、目標値の80%程度となった。1学期よりも数値が下がった。しかし、「私は、教職員間で相談した業務の手助けをしたりするなど、互いに頼みやすい雰囲気があると感じている。」の項目で1学期よりも数値が高くなった。職員同士の関係性を基盤に、風通しのよい職場作りをより意識することにより職員の充実感の向上に一層努めた。					

【取組評価】 A：100≦(目標達成) B：80≦(ほぼ達成)<100 C：60≦(もう少し)<80 D：(できていない)<60

【外部評価】

イ：自己評価は適正である。
ロ：自己評価は適正でない。
ハ：わからない。